

《環境マネジメントシステムの統合》

● 認証およびEMS活動を集約統合

2013年度は、三総研(サービスイノベーション総合研究所、情報ネットワーク総合研究所、先端技術総合研究所)の環境マネジメントシステム(EMS※)にとって、変革へ向けた年となりました。

これまでは、三総研が、個別にISO14001認証を取得し、EMSに取り組んでおり、総研毎に体制や取り組み内容等もそれぞれのやり方で進めていました。そして、より効率的効果的な体制を構築し、業務効率化を図っていく観点から、2014年度より、三総研におけるEMS業務を統合しました。

ISO14001要求事項に適合するために、NTT研究所として取り組むべきことを精査し、マネジメントシステムの見直しを行いました。

統合の方針としては、情報ネットワーク総合研究所のEMSを基本に、サービスイノベーション総合研究所、先端技術総合研究所に必要な要素を補うこととしました。

また、情報ネットワーク総合研究所の認証登録を引き継ぎ、ISO14001の認証期間を継続するとともに、スムーズに統合を図る観点から、2014年度に統合認証を取得し更新をめざします。

● 効率的・効果的かつ強固な体制へ

三総研統合EMSでは、情報ネットワーク総合研究所所長を代表とした、サービスイノベーション総合研究所所長、先端技術総合研究所所長の三総研所長を最高経営層として、EMS体制を確立し、環境保護活動を行います。

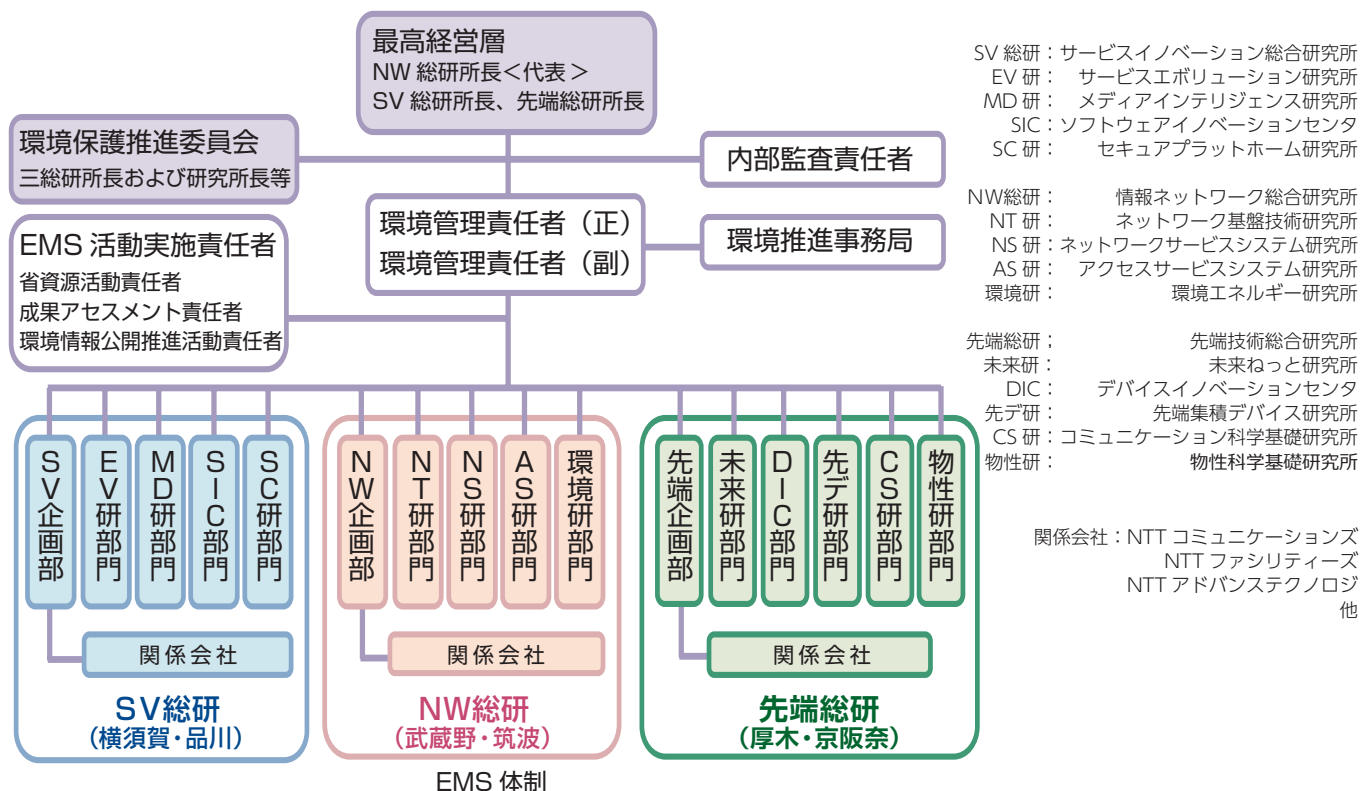
三総研一体となった環境保護施策を推進するため、あらたに、先端総研CS研(京阪奈)を、認証登録範囲に含めることとします。

また、今までは、EMSの取り組み部門の構成が、研究所単位や、部単位でしたが、研究所単位に統一し、報告・承認のフローを整理しました。

「環境保護推進委員会」は、最高経営層の三総研所長および、各研究所の所長で構成され、年2回開催します。そして、環境目的・目標、実施計画などの審議や、EMS活動の報告を行います。

「環境管理責任者」は、最高経営層から活動に関する指示を受け、「部門」と、連携して、環境保護活動に取り組みます。

※ EMS:Environmental Management System



《環境マネジメントシステムの統合》

環境方針

人類が自然と調和し、未来にわたり持続可能な発展を実現するため、私たち三総合研究所は一体となって、全ての研究開発活動において地球環境の保全に向けて最大限の努力を行います。

1. 環境に関する法規制及びその他の要求事項を順守するとともに、「NTTグループ地球環境憲章」に基づく「THE GREEN VISION 2020」をもとに環境保護活動を推進します。
2. 環境に貢献する研究開発成果の創出、提供を推進します。
 - ・グリーンR&Dガイドライン等に基づいた研究開発アセスメントの実施
 - ・ライフサイクルアセスメント等を用いた環境貢献度の評価
3. 研究開発活動に伴って生じる環境汚染の予防に取り組みます。
 - ・エネルギー及び資源の有効利用
 - ・廃棄物のリサイクルの推進
 - ・化学物質の適正管理
4. 地域環境保護活動への参加並びに環境関連情報の公開により、研究所内外とのコミュニケーションを図ります。
5. 生物多様性の保全に取り組みます。
6. 環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

2014年7月1日
日本電信電話株式会社
サービスイノベーション総合研究所長
藤田 敏昭

情報ネットワーク総合研究所長
渡部 信幸

先端技術総合研究所長
村瀬 淳

《環境マネジメントシステムの統合》

●2014年度の環境目的・目標

項番	目 的	目 標
1	研究開発成果物で「環境への取り組み」の推進	(1) 研究開発アセスメントの実施 研究開発成果グリーンアセスメント報告書を活用した研究開発成果の環境影響評価の実施
		(2) 研究開発成果の環境貢献度評価の実施 NTT 事業やユーザに対し、環境面で大きな貢献を果たすものについての定量的評価の実施
		(3) 本来業務での EMS の実施 研究開発業務における個別テーマ推進による環境貢献活動の実施
2	環境情報公開の推進	(1) 各総研ホームページでの環境への取り組みの紹介
		(2) 環境レポートによる情報公開
3	省エネ施策の推進 ・ NTT グループ グリーンビジョン 2020 にもとづき研究所、居室系エネルギー使用量削減の推進 2020 年度三総研の CO ₂ 排出量 59,000t-CO ₂ / 年未満	(1) ロケ全体の省エネ施策の推進 ①武蔵野ロケ： 武蔵野 Challenge25 プロジェクト事務局を主幹とした活動の推進 2010 年度実績値の 26%削減 (37,481 千 kWh) (CO ₂ で 2010 年度比 21% の削減 (15,281t)) ②筑波ロケ： 2010 年度実績値の 3%削減 (2,541 千 kWh) (CO ₂ で 2010 年度比 3% の削減 (940t)) ③横須賀ロケ： 2010 年度実績値の 29%削減 (12,136 千 kWh) (CO ₂ で 2010 年度比 28% の削減 (6,996t)) ④厚木ロケ： 2010 年度実績値 10%の削減 (49,806 千 kWh) (CO ₂ で 2010 年度比 20% の削減 (26,800t))
		(2) 居室系の節電施策の推進 (全体運動) 居室における節電施策の立案と実施
		(3) 実験室系の節電施策の推進 実験室における節電施策の立案と実施
		(4) 共通的な全所節電施策の推進 ロケ内全館、敷地内の節電施策の実施
4	化学物質の適正管理	(1) 化学物質の適正使用と保管および教育・訓練の実施
		(2) センタ排水水質汚濁物質の流出未然防止
5	地域社会への貢献	清掃活動実施
6	生物多様性の保全	生物多様性の保全と持続可能な利用に係る認識の向上 ①三浦半島の生き物（鳥類・野草等）の観察・調査 ②武蔵野地域の生き物（野草・山菜等）の観察・調査、および枯葉埋設による昆虫の生態系保護の促進 ③厚木市の生物多様性の環境保全活動の情報共有と協力

《環境マネジメントシステムの統合》

●2014年度の本格運用に向けて

2014年4月1日からの本格運用開始に向けて、2013年度より、統合システムを構築し、準備作業を行いました。

運用に当たり、マニュアル、規定等のEMS文書は、現場における運用手順に関わるものを除き、共通的な内容は統合し、合わせて、文書全体の見直しを行いました。

環境影響評価は、調査項目を本当に必要なものに絞り、評価方法を簡素化しました。

環境側面については、「使用量または保管量」、および「法令違反、事故、苦情の有無」などを中心に調査し、評価しました。

三総研全体の環境目的・目標は、現行の情報ネットワーク総合研究所の全体の目的・目標を基本とし、他総研の取り組みを加味しました。

秋ごろに行う予定の内部監査で、統合したEMSの運用状況を確認し、統合認証までに、PDCAサイクル[※]を一巡させます。

三総研EMSの事務局は、集約して武蔵野研究開発センタに設置し、三総研の各ロケ(武蔵野、横須賀、厚木、筑波、京阪奈、品川の16部門)のEMSを直接統括します。

三総研EMS統合後も省エネルギー・省資源活動、廃棄物の適正管理活動、環境汚染防止活動や生物多様性の保全活動などを、継続して行います。

各ロケの現状を把握するため、年2回、環境関連施設を中心に、現地の環境点検を行う予定です。

また、2015年度からの環境レポートには、統合したEMSの結果をまとめ、環境に貢献する研究開発およびEMSの活動を紹介していきます。さらに、ホームページで公開します。

※ PDCAサイクル:plan(計画)-do(実行)-check(評価)-act(改善)cycle

三総研のEMS統合にあたり

三総研のEMSを統合することによって、業務効率化とコスト削減の効果をもたらすとともに、ISO14001に沿ってNTT研究所として取り組むべきことを、効率的かつ効果的に運用することをめざし、その実現に努力していきます。

また、統合後、EMS事務局は、武蔵野研究開発センタ内の情報ネットワーク総合研究所に集約しました。今後も、ICTを活用したテレビ会議などで、三総研内のコミュニケーションを図り、それぞれの状況を把握し、意見を取り上げながら、進めていきたいと思います。

構成員には、これまで培ってきた環境負荷低減に対する意識を継続し、維持することを、協力要請していきたいと思います。

さらに、三総研統合EMSホームページやEMSニュースの発行などにより、EMS活動の進捗を公開し、取り組み状況が実感できるようにしたり、EMS活動に役立つ情報などをわかりやすく伝えていきたいと考えています。

樋口 功一郎
統合EMS事務局
情報ネットワーク総合研究所
企画部 オフィス担当

